

功績に光

尽力された方々が、荣誉に輝かれました。

昭和47年の衆院選での初当選以来、議員生活は36年余りにも及んだ。その間、防衛庁長官、建設大臣などの要職を歴任した。十二分に仕事ができたとはいわれると「もう少しは」との思いはあるものの、「多くの方々のお世話になった。『つなぎ役』として少しは皆さんの役に立てたかな」と振り返る。

建設大臣時代には、仕事柄ふるさとの地図を集めてはふるさとを懐かしんで眺めていたとも明かす。「正直ホッとしている。七尾は農村地帯でいいところ。これから地元でゆっくり生活できるのがうれしい」。

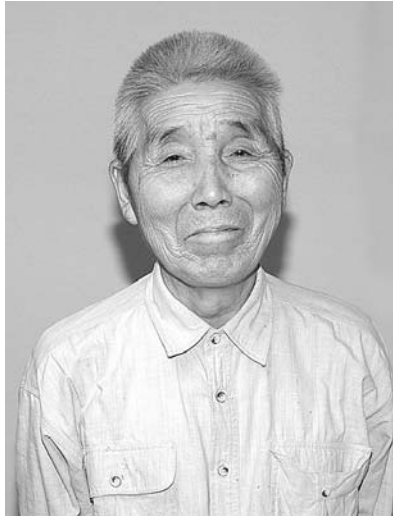
今後は「能越道や七尾港のこれからを見届けたい。力強い七尾、能登であってほしい。」とエールを送る。

秋の叙勲
旭日大綬章



かわら つとむ
瓦 力さん(72歳)
(南藤橋町)
【元衆議院議員】

秋の叙勲
瑞宝単光章



よしだ たけし
吉田 武さん(78歳)
(矢田町)
【元七鹿広域圏
第1消防団分団長】

世の中にはどんな仕事でも誰かがやらなければならないことがある」と書かれた本の一節が忘れられず、「何か世の中のためになることができれば」と思い、24歳で消防団に入団。以来35年間、地域の安心安全に貢献。これまでの数多い火災現場での思い出が昨日のこのように頭を駆け巡る。「身に余る光栄」と受章を喜びながら、今後の地域の安全を願う。

秋の叙勲
旭日中綬章



ちよう けんじ
長 憲二さん(70歳)
(南藤橋町)
【元県議会議員】

旧七尾市議12年、県議24年と、36年間を議員生活に捧げた。七尾大田火電建設、県水の能登島までの導水、能登空港開港が特に印象深い。「能登有料道路の県水の工事現場を見て、ようやく実現にこぎ着け感無量だった。能登空港の起工式では思わず涙した」と思いをはせる。

市体育協会や市話し方研究会での功績も大きく「すべては人様のおかげ。授かった『天与』を糧として、これからも一生懸命がんばりたい」と締めくくった。

長年の

長年にわたりそれぞれの分野で

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章



おおしま さだむ
大島 定さん(81歳)
(矢田町)
【元海上保安官】

昭和24年の入庁以来39年間、海上の安全確保と救助活動に尽力。昭和63年頃、真冬の金沢港で3人の隊員で海に飛び込み、尊い命を救うことができたことが特に印象深い出来事。

「微力だったが、与えられた職務を自分なりにがんばった。可能性が1%でもあれば心をひとつにして任務を全うしただけ」と同僚たちとの絆を今でも忘れない。

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章



きたにし としお
北西 敏雄さん(70歳)
(能登島通町)
【元警部】

18歳から約42年間、警察官として金沢を中心に勤務。警察署以外にも警察学校や拘留所などでも勤務。数多い思い出の中でも、一番印象に残っていたのは30歳代の巡査部長時代の石川県1号指定事件。県下を荒らし回っていた泥棒を検挙したことが思い出。「今までお世話になった先輩や後輩はもちろん、いろんな方々の支援があったからこそ。とにかく感謝の一言」。

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章



やまぐち きよのり
山口 清典さん(70歳)
(矢田町)
【元七鹿広域圏 消防監】

「先輩たちにたくさん教えられ、鍛えられたからこそ今の自分がある」と消防人生を振り返る。

昭和33年に消防に入り40年間勤務。高度経済成長を背景に市内でも建物の高層化が進み、火災が複雑化するようになった。「建物の安全性確保のため、事業主の方に理解してもらおうのに苦労した」と予防課時代を思い返す。命の重みを学んだ経験から「少しでも社会のために還元したい」と、現在は高齢者施設の運営に励む。

秋の褒章
黄綬褒章



たなか まさはる
田中 雅晴さん(70歳)
(山崎町)
【JA能登わかば農協 組合長】

「地域の人たちと農業を創る。そして、地域を創る」を信念に、「農業を通して地域を元気にしたい」と意欲を燃やす。

父親の急死がきっかけで七尾に戻り、地元で農協で農業のいろはを学んだ。20代の証券会社勤務を生かし経営再建にも尽力。

今後の農業は「加工と販売」と言い切り、「健康に生きるためには『食』。高機能で収益が上がる野菜を主力作物にしたい」と今後を見ずえる。